

日本物理学会 第 80 回年次大会 広島大学

領域 8 インフォーマルミーティング 議事録

日時：2025/9/18 12:30 – 13:30

場所：広島大学 東広島キャンパス SK110

議長：黒木 和彦（領域代表，阪大）

司会：角田 峻太郎（運営委員代表，東大）

書記：東中 隆二（書記，都立大）

議題：学生優秀賞 表彰 前回大会 2025 年春季大会

受賞者名 所属 講演題目

・松山 直史、東大物性研

スキルミオンひもに沿ったフォノンの非相反伝搬

・松村 拓輝、京大院理

超純良単結晶 UTe_2 におけるスピン三重項超伝導の新現象

・Jeong Junhyeok、東大物性研

Extremely large superconducting gap opening and evidence of BCS-BEC crossover in small Fermi pocket of cuprate superconductors

・湯池 宏介、東大物性研

六方晶 Zr_6MBi_2 の合成および超伝導

・西田 祥太、東大新領域

パイロクロア型ニオブ酸化物における単結晶 X 線散漫散乱の逆モンテカルロシミュレーションによる解析

・山口 広、廣大先進理

電子ドープ系銅酸化物高温超伝導体における量子電荷揺らぎが創発する電子状態の包括的研究

書状の授与を行った。

議題 1：プログラム編集について

・今回は現地開催。解錠への移動の便宜のため、終了時刻が 1715 の制限があった。

・領域 8 のシンポジウムは二件。

「熱電研究の最前線：電子散乱からのアプローチ」 1 日目午後

「カゴメ構造がもたらす新しい量子状態」 2 日目午後

反省点：1715 終了を勘違いしており、セッション振り分けに時間がかかってしまった。

・申込件数：前回現地開催の北大と比較して少し減少。ポスターは微増。

・概要提出率：例年とあまり変化なし。

コメント：

平衡状態で推移している。顕著な減少は見られなかった。開催場所依存がある。

他領域と比較して、傾向にあまり大差はない。

計算物理領域と重なる部分が多く影響があるのでは？

今回は全てが共同開催で行われており、その場合、両方の領域にカウントされるため、件数減少には影響なし。

詳細なデータを載せておきます。

2025 秋 (広島大学)

	口頭	ポスター	合計
低温	186	87	273
磁性	93	83	176
全体	279	170	449

(参考) 2025 春 (オンライン)

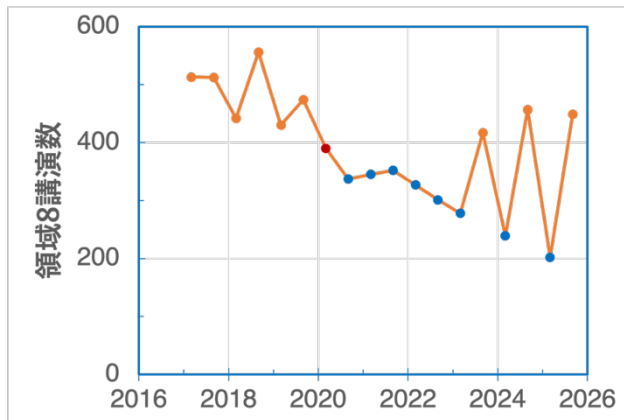
	口頭	ポスター	合計
低温	97	20	117
磁性	46	39	85
全体	143	59	202

(参考) 2024 秋 (北海道大学)

	口頭	ポスター	合計
低温	211	78	289
磁性	95	76	171
全体	306	154	460

第80回年次大会 (2025年) 講演概要集提出率

領域	講演者数	論文提出数	論文提出率
素粒子論領域	205	103	50.2%
素粒子実験領域	229	174	75.9%
理論核物理領域	137	114	83.2%
実験核物理領域	170	152	89.4%
宇宙線・宇宙物理領域	304	225	74.0%
ビーム物理領域	73	62	84.9%
計算物理領域	129	105	81.3%
領域1	212	201	94.8%
領域2	105	101	96.1%
領域3	241	238	98.7%
領域4	162	151	93.2%
領域5	213	207	97.1%
領域6	129	126	97.6%
領域7	119	114	95.7%
領域8	466	447	95.9%
領域9	95	90	94.7%
領域10	88	84	95.4%
領域11	439	406	92.4%
領域12	177	169	95.4%
領域13	75	70	93.3%
物理と社会	7	5	71.4%
領域横断 (理事会)	12	10	83.3%
合計	3787	3354	88.5%

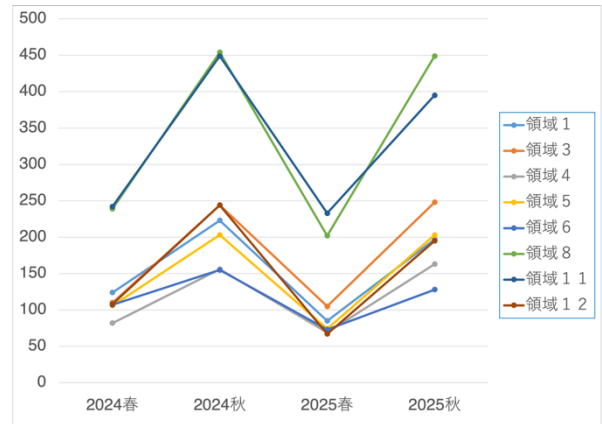


- コロナ直前程度で、増加傾向はない
- 対面/オンラインの違いが顕在化

- 2025 秋： 449 (広島大)
- 2025 春： 202 (Web)
- 2024 秋： 460 (北大)
- 2024 春： 239 (Web)
- 2023 秋： 417 (東北大)
- 2023 春： 278 (Web)
- 2022 秋： 301 (東工大+Web)
- 2022 春： 327 (Web)
- 2021 秋： 352 (Web)
- 2021 春： 345 (Web)
- 2020 秋： 337 (Web)
- 2020 春： 390 (コロナ中止)
- 2019 秋： 474 (岐阜大)
- 2019 春： 430 (九州大)
- 2018 秋： 556 (同志社大)
- 2018 春： 442 (東京理科大)
- 2017 秋： 512 (岩手大)
- 2017 春： 513 (阪大)

他領域との比較（直近4大会、物性上位8領域）

	2024 春	2024 秋	2025 春	2025 秋
素粒子論	147	217	138	196
素粒子実験	199	247	178	211
理論核物理	110	124	113	130
実験核物理	167	173	139	165
宇宙線				
宇宙物理	193	301	139	301
ビーム物理		59		56
計算物理				110
領域 1	124	223	85	197
領域 2	78	109	70	104
領域 3	110	244	105	248
領域 4	82	156	69	163
領域 5	106	203	74	203
領域 6	107	155	73	128
領域 7	48	110	42	93
領域 8	239	454	202	449
領域 9	86	124	57	85
領域 1 0	62	116	46	78
領域 1 1	242	449	233	395
領域 1 2	108	244	67	195
領域 1 3	77	65	77	67
物性合計	1469	2652	1200	2405
学会合計	2285	3773	1907	3574



議題 2：次期領域委員の紹介

次期運営員の紹介

現行 (2025/4 – 2025/9)

	2024 年 10 月-2025 年 9 月	2025 年 4 月-2026 年 3 月
低温	藤岡 正弥 (産総研/実験) 副代表 石塚 淳 (新潟大/理論) web 担当	中埜 彰俊 (名大/実験) 中山 耕輔 (東北大/実験) 播木 敦 (大阪公立大/理論)
磁性	角田 峻太郎 (東大/理論) 代表 東中 隆二 (都立大/実験) 書記	井戸 康太 (東大/理論) 松本 圭介 (愛媛大/実験)

次期 (2025/9 – 2026/3)

	2025 年 4 月-2026 年 3 月	2025 年 10 月-2026 年 9 月
低温	中埜 彰俊 (名大/実験) 学生賞 中山 耕輔 (東北大/実験) 代表 播木 敦 (大阪公立大/理論) web 担当	岡崎 宏之 (QST/実験) 副代表 森本 高裕 (東大/理論) 書記
磁性	井戸 康太 (東大/理論) 副代表 松本 圭介 (愛媛大/実験) 書記	比嘉 野乃花 (広大/実験) web 担当 水野 竜太 (阪大/理論) 代表

承認。

議題 3：次次期領域運営委員の推薦・承認

黒木先生を通じて連絡。

承認前に各自自己紹介、挨拶を。

低温・実験	鈴木 博人	東北大学
低温・理論	大岩 陸人	北海道大学
低温・理論	松原 愛帆	東京理科大学
磁性・理論	福井 毅勇	立命館大学
磁性・実験	脇舎 和平	岩手大学

承認。

議題 4：次次期領域副代表の推薦・承認（有馬先生）

次次期(2027/4-2028/3)の領域副代表、北大 網塚先生。(次期は京大 柳瀬先生)

網塚先生挨拶。承認。

網塚先生の略歴は以下の通り

学歴：

1987年 3月 北海道大学理学部 卒業

1989年 3月 北海道大学 大学院理学研究科修士課程修了

1989年 6月 北海道大学 大学院理学研究科博士課程退学

学位：

1994年 3月 博士（理学）（北海道大学）

職歴：

1989年 7月 北海道大学 理学部助手 （1995年に大学院理学研究科に改組）

1995年 5月～1996年 2月 アムステルダム大学 （文部省在外研究員）

1995年 10月 北海道大学 大学院理学研究科講師

2000年 4月 北海道大学 大学院理学研究科助教授

2005年 4月 北海道大学 大学院理学研究科教授 （2006年に理学研究院に改組） 現在に至る

2025年 4月 北海道大学 副学長 現在に至る

専門分野：希土類やアクチノイドの金属化合物における新奇な磁性や伝導特性（実験）



議題 5：領域委員会報告(黒木)

本年次会においてシンポジウム 2 件、チュートリアル講演 1 件が提案され、採択。

一般シンポジウム：熱電研究の最前線：電子散乱からのアプローチ

共催シンポジウム：カゴメ構造がもたらす新しい量子状態

チュートリアル講演：高温超伝導入門と今後の展望

・領域 HP の日英併記が必須となった。既に領域 8 は対応済み

・オンラインポスター発表について

ショートプレゼンテーション 1 分実施後、ブレイクアウトルームへ移行の形式で開催。

2026 春学会から実施予定。

コメント：ショートプレゼンテーションで一定の宣伝効果が期待できる。発表時間は全体で 2 時間となる。

バーチャルな空間をソフトウェアで準備するとお金がかかるので断念。

フィードバックが重要なので、皆さんご意見をお願いします。。

・現地ポスター開催について

今回から、10-12, 14-16 の二つの時間帯のみの講演に変更。

・80周年記念国際シンポジウム開催(2026/9)のお知らせ

来年、物理学会設立80周年を迎えることを記念した国際シンポジウムを開催。

日程、場所：2026年9月13日(日)、東京大学駒場キャンパス

国際的に活躍する研究者10名ほどの招待講演を中心に構成予定。

国外からの招聘者の旅費は物理学会が支払い予定。

物理学会のシンポジウムとかぶらないようにするため、2026/3にはプログラムを決定予定。

第81回年次大会(9月14日~17日、東大駒場)でも本シンポジウムと関連したサテライトシンポジウム(国際シンポジウム、4本程度)を企画予定。

・領域のあり方と現状の課題について

領域制が導入されて四半世紀が経過。

当初は5年おきに領域の構成を再検討する予定であったが、これまで実行されず。

領域によっては維持が難しくなっている。

領域として意見をとりまとめるのではなく、全ての意見を上に上げる予定のため、サククバランに意見を言って頂きたい。

コメント：他領域との境目をどのようにするのか？

番号分けをしたのは境目を曖昧にするため、四半世紀前のため、再度議論すべきでは？

他領域で同様の内容がパラレルで走っている。もう少しセッションを工夫できないか？

合同セッションであれば、他領域の情報が入ってくるが、それ以外は情報のやりとりはない。

事前に、他領域も含めて発表内容の事前洗い出しが行えないか？

合同セッションのキーワードを増やした方がいいのでは？

増やすためには、他領域との相談が必要。

シンポジウムの決定以後、委員会はないのでその後の他領域間の連絡はほとんどない。

奨励賞、論文賞のために領域の境目をあまり曖昧にしすぎるのも問題である。

プログラム編成において、セッション分けが一番時間がかかる。

特に領域3,6とのオーバーラップが多いため、これらの領域の運営委員長とミーティングが必要なのでは？

研究内容には流動性があり、現状を認識してキーワード等を設定する必要がある。

マルチフェロイクスのセッションは現状3,8,10に存在している。

領域間で話し合いがもたれ、2008年から合同セッションを行うことが決定。

現状、フラストレーション、トポロジカルについては他領域と話し合いを持ち、積極的に

合同セッションを開催するようにすべきでは？

領域のキーワードが更新されていないのが問題。

領域3では人を集めたいのでキタエフを追加した。

キーワードの追加はどの時点でごろんすべき？

講演募集の際にキーワード更新の話が出るのでそこでの議論は可能。

領域スタッフのメーリングリストで議論をしていく。

議題6：領域8 学生優秀発表賞について

詳細については本学会終了後に発表予定。担当は有馬先生。

たくさんのご応募をお待ちしております。

議題7：その他(黒木)

・ 次回のインフォーマルミーティングについて

3日目の夕方 1730 ぐらいを予定。

・ 領域のトピックスについて

まとまった表があると発表申込時以外でも参照できて便利では？

既に HP 上に載せているが、周知不足で認識されていない。

内容についても更新が必要では？

このとき、他領域のキーワードは追加できないのか？

かぶるキーワードは合同セッションを開催すべきだが、合同セッションがわかりにくい。

会議終了。